慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	先端産業における競争戦略 - 電卓産業にみる勝ち残り戦略 -
Sub Title	
Author	堀雅寿(Hori, Masatoshi) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1986
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1986年度経営学 第502号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001986-0502

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0502

学生氏名　堀　雅寿　（富士ゼロックス株式会社）

所属ゼミナール　石田英夫研

主査　石田英夫

副査　奥村昭博

青井倫一

先端産業における競争戦略
－電卓産業に見る勝ち残り戦略－

近年のエレクトロニクス技術の急速な進歩は、その技術を応用している産業に大きな変化をもたらしている。我々の身の回りでもHA（ホームオートメーション）とまで言われ、OA専用の製品が、手の届くところまで価格が下がったり、オフィス向けには次々に新しい機能が追加され、又今までの機能も格段に向上している。それらにより、こうしたエレクトロニクス製品の市場は急成長を遂げているものが多い。ところが急成長ゆえに参入企業が急増し、激しい競争が行なわれ、利益なき戦いが続いている。こうした産業で勝ち残るための競争戦略とは？一般的な戦略定石が効くのであろうか、という疑問が自然に生じる。

こうした、技術革新の激しい先端産業における競争戦略を、ある産業をモデルにして、戦略仮説を実証することにより、導き出していくのが、この研究の目的である。

分析対象とする産業は電卓に求めた。なぜなら、今日の先端産業における先輩であり、競争状況もよく似ており、結局2社（カシオ・シャープ）しか残らなかったという厳しい結果が良き手本になると考えたからである。

研究方法は、電卓産業においてシェアを獲得するための有効な戦略の仮説を構築し、それを重回帰モデルで分析し、実証する方法をとった。結果としては、その仮説は実証でき、次のような結論が導き出された。①電卓産業ではポーターの主張する、コストか差別化のどちらかではなく、両方共に達成しないとシェアは獲得できない。②差別化のポイントは計算機能から薄型化へと移った。

これらの結果に基づき、ワープロやファクシミリの製品分析も合わせると、次のような結論を得た。①コストリーダーになることと、基本機能による差別化が競争の初期には重要、②基本機能の向上が限界にくると、次の差別化が必要であり、その時もコストリーダーになることが必要である。この差別化の狙う方向は、機器の使いがってを改良するものであって、素人であるマスパーソナル層を狙うことが重要である。

なお、2つの戦略を次のように名付けた。

①　コストパフォーマンス戦略，②　コストインターフェース戦略